

# 第4期中期目標・中期計画等に係る 自己点検・評価報告書

令和6年度

エグゼクティブ・サマリー

KYOTO UNIVERSITY

京都大学



# 1 はじめに

## 第4期中期目標・中期計画

### 【中期目標・中期計画とは】

- ・ 中期目標とは、文部科学大臣が定める、6年間にわたり国立大学法人が達成すべき業務運営に関する目標のこと。
- ・ 中期計画とは、国立大学法人が中期目標を達成するために作成する具体的な計画（文部科学大臣が認可）のこと。
- ・ 本制度は、平成16年の国立大学法人化に伴い導入され、現在は令和4年度から始まる第4期にあたる。

### 【第4期中期目標期間におけるポイント】

- ・ 各国立大学法人は、文部科学省が提示した「[中期目標大綱](#)」から6年間で自らが果たすミッションを中期目標として位置付けた上で中期計画を策定
- ・ 各中期計画には、達成水準を示すための**評価指標**を設定することが義務付け
  - ※評価指標のうち、文部科学省が意欲的な達成水準を掲げていると認めたものを「意欲的な評価指標」という。
  - 法人評価において、達成水準を満たせば、それ以外の評価指標が達成水準を満たした場合よりも高く評価されるとともに、達成水準を満たしていない場合でも、達成に向けた取組の改善やこれまでの取組に係る進捗を確認できた場合は、それ以外の評価指標の達成状況と比して不利な結果とならない。
  - 本学の評価指標のうち、意欲的な評価指標に該当するもの：評価指標【2】、【7】、【29】③
- ・ 第1期から毎年度実施していた年度評価が廃止

➔ 本学では、自己点検・評価の充実とともに、積極的な情報発信の観点から、中期目標・中期計画の取組にかかる自己点検・評価報告書を毎年度作成

## ■京都大学 第4期中期目標・中期計画

## 世界に輝く研究大学

中期目標・中期計画の全文は、[こちらから](#) ご覧いただけます。

中期目標・中期計画のうち、一部は指定国立大学法人構想と関連いたします。指定国立大学法人としての取組については、[こちらから](#) ご覧いただけます。

※令和6年度進捗状況は9月頃の掲載を予定しています。

KYOTO UNIVERSITY

2027  
(R9)

2024  
(R6)

2022  
(R4)

教育	研究	人材育成	社会連携	業務運営等
<p>(主なキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 大学院教育を支援する全学組織の設置</li><li>■ Kyoto iUPや少人数教育の充実</li><li>■ 女子学生比率の増加</li><li>■ 学生相談・支援全般の整備</li></ul>	<p>(主なキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 人文・社会科学の学際研究の推進と社会発信</li><li>■ スモールアイランド型研究領域等の新領域の開拓</li><li>■ 研究者支援体制の充実</li><li>■ ベンチャー支援を通じた研究成果の社会還元</li></ul>	<p>(主なキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 大学院生への経済支援強化</li><li>■ 優秀な若手研究者の増加</li><li>■ 女性教員比率の増加</li><li>■ 人事制度改革等の実施</li></ul>	<p>(主なキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ On-site Laboratory等を活用した国際共同研究の推進</li><li>■ 組織対組織による大型共同研究の増加</li><li>■ デジタル化・グローバル化に対応しい図書館機能の整備</li><li>■ 先端医療研究開発機構(iACT)を中心とした事業展開</li></ul>	<p>(主なキーワード)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 強靱なガバナンス体制の構築</li><li>■ 研究成果・学術資源のオープンアクセス等の情報発信</li><li>■ 「京都大学スマートキャンパス計画」等の環境整備</li><li>■ 基金活動の推進及び学内資源配分の最適化</li></ul>



## 2 自己点検・評価のポイント -実施方法-

自己点検・評価機能を強化し、より内部質保証を確保するとともに、法人評価(令和8年度、令和10年度)の実施方法を踏まえ、下記の点を重視

### 1 評価指標の達成状況に重点を置いた5段階評価

- 評価指標の判定(3段階)の平均値を基に中期計画を判定
- 優れた実績や成果、進捗状況を勘案し、上記判定の引上げ・引下げも可

### 2 各評価指標の実績が把握しやすいよう様式を変更

- 各評価指標の取組・成果を把握しやすいよう、評価指標ごとに区分
- 定量的な評価指標については、グラフを表示(「意欲的な評価指標」に該当するもの 、指定国立大学構想のKPIと共通のもの )
- 評価指標にはない中期計画の事項についても実績状況を記載

### 3 内部質保証機能を見える化

- 各中期計画における担当理事・担当課の自己評価に加え、大学評価委員会(※)として点検・評価結果を記載
- 判定とともに優れた点や改善に向け今後期待する点がある場合はコメントを記載(本サマリーにも一部のコメントを掲載)

(※) **大学評価委員会**は、本学の教育研究水準の向上を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況に関する点検・評価業務を行う学内組織です。今回の第4期中期目標・中期計画等に係る自己点検・評価報告書では、担当理事・担当課の自己判定に対して、第3者委員会としてレビューを行い、本学としての自己判定結果を取りまとめております。

【評価指標】判断基準

判定区分		判断基準	
区分	点数	定量的な評価指標	定性的な評価指標
iii : 達成水準を大きく上回ることが見込まれる	3	客観的に実績値(見込)が達成水準(目標値)を大きく上回ることが見込まれる(大きく上回る水準は、目標値の130%以上を目安としつつ基準値及び目標値の設定状況や目標の困難度等を踏まえて評価指標ごとに判断)	達成水準を満たすことが見込まれる上で、優れた実績・成果が見込まれる場合
ii : 達成水準を満たすことが見込まれる	2	客観的に達成水準(目標値)を満たすことが見込まれる	実績・成果により、達成水準を満たすことが見込まれる
i : 達成水準を満たさないことが見込まれる/達成水準に対して進捗が遅れている	1	客観的に達成水準(目標値)を満たさないことが見込まれる/達成水準(目標値)に対して進捗が遅れている	実績・成果に鑑みて、達成水準を満たさないことが見込まれる/実績・成果に鑑みて、達成水準に対して進捗が遅れている

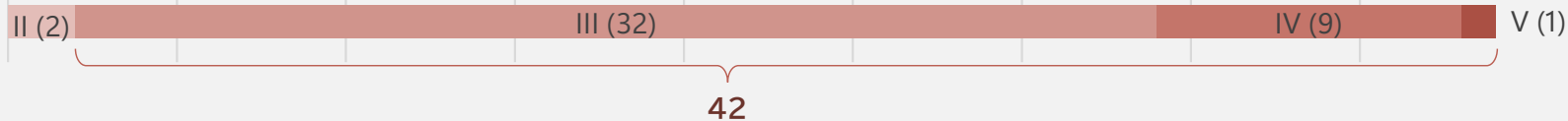
【中期計画】判断基準

判定区分	判断基準
V: 中期計画を十分に実施し、特に優れた実績を上げている	評価指標の平均値が2.8以上を目安としつつ、実施状況等によりIVとすることも可
IV: 中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている	評価指標の平均値が2.4以上2.8未満を目安としつつ、優れた成果等によりVとすることやその他実施状況等によりIIIとすることも可
III: 中期計画を十分に実施している	評価指標の平均値が2.0以上2.4未満を目安としつつ、優れた成果等によりIVとすることやその他実施状況等によりIIとすることも可
II: 中期計画を十分に実施しているとはいえない	評価指標の平均値が1.5以上2.0未満を目安としつつ、優れた成果等によりIIIとすることやその他実施状況等によりIとすることも可
I: 中期計画の実施が進んでいない	評価指標の平均値が1.5未満を目安としつつ、優れた成果等によりIIとすることも可

# 3 自己点検・評価の結果 -総評-

## 中期計画について

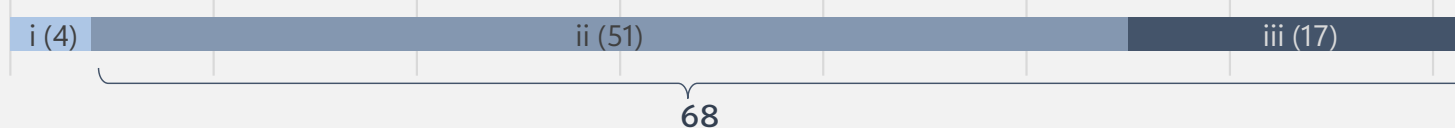
中期計画(44計画) 判定結果(大学評価委員会の判定)



- 全44計画のうち、42計画について中期計画を十分に実施しており、順調な進捗を確認。そのうち、9計画を優れた実績を上げている(判定IV)、1計画を特に優れた実績を上げている(判定V)と評価。
- 評価指標が目標値に達するにはかなり厳しい状況であると判断した計画は、中期計画を十分に実施していない(判定II)と評価。(2計画。ただし、再掲があるため内容としては1計画)

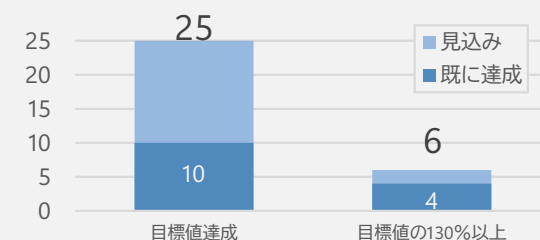
## 評価指標について

評価指標(72指標) 判定結果(大学評価委員会の判定)



- 全72指標のうち、68指標が達成水準を満たす見込み。そのうち、17指標が達成水準を大きく上回る見込みであると判定(判定iii)。
- 一方、達成水準を満たさないことが見込まれる／達成水準に対し進捗が遅れていると判定した指標(判定i)は4指標(うち1指標は再掲)。
- 達成時期を最終年度としている定量的な評価指標 25指標について、全ての指標が最終年度には目標値に達する見込みであり、うち10指標が既に目標値を達成。
- 達成時期を最終年度としている定量的な評価指標25指標について、6指標が目標値を大きく上回る(目標値の130%以上が目安)見込みであり、うち4指標が既に目標値の130%以上を達成。

達成時期が最終年度である  
定量的な評価指標(25指標)



# 3

## 自己点検・評価の結果 -各中期計画の達成状況-

### I 教育研究の質の向上に関する事項

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
社会の共創	1	博士後期課程学生への授業料相当額支援の拡充					
	2	白眉プロジェクトによる若手研究者受入れ/高等研究院の拡充・発展、若手研究者に対する仕組みの整備による新領域創設の促進					
	3	スモールアイランド型研究領域創成のための組織整備と支援					
	4	人社系分野における学際研究促進のための組織整備、研究成果の社会発信・英文ジャーナル掲載等の強化					

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
教育	5	教育プログラム・組織改編等における外部評価委員会等ステークホルダーからの意見反映/社会ニーズを踏まえた組織改編・整備の推進					
	6	【学士課程】学問分野発展や社会状況・学生変化に応じた教育内容の見直し、少人数教育の強化・電子化促進等による効果的な教育方法の開発					
	7	【修士課程】修士課程学生への奨学金等支援強化と博士後期課程への進学者確保					
	8	【修士課程】学問発展状況や社会変化に応じた専門教育の見直し、社会人入学の拡充/大学院教育支援の全学組織による横断教育の充実と社会実践能力習得のための起業・産連科目提供					
	9	【博士課程】経済的支援の拡充					
	10	(中期計画8の再掲、中期計画8と同判定)					
	11	【学部】Kyoto iUPの充実による優秀な留学生増加と単位修得を伴う短期留学の増加					
	12	【大学院】大学院教育支援の全学機構による大学院教育のグローバル展開の強化					
	13	女子学生比率の増加に向けたアクションプラン策定・女子中高生への情報発信強化					
	14	(中期計画11の再掲、中期計画11と同判定)					
	15	(中期計画12の再掲、中期計画12と同判定)					
	16	学生相談に係る全学組織の強化・整備と相談窓口の整備					

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
研究	17	教育研究補佐業務の雇用体制整備による研究環境改善					
	18	若手研究者着任時の研究費支援・大型研究費獲得支援					
	19	若手研究者に係る定員運用の仕組み拡大					
	20	(中期計画17の再掲、中期計画17と同判定)					
	21	(中期計画18の再掲、中期計画18と同判定)					
	22	(中期計画19の再掲、中期計画19と同判定)					
	23	特許の利用促進やベンチャー支援を通じた研究成果の社会還元促進					
	24	定員運用やインセンティブ等による若手研究者の増加/採用/昇任インセンティブ等、女性教員比率の増加に向けたアクションプラン策定					

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項	25	On-site Laboratory、戦略的パートナーシップ等国際学術ネットワークの枠組活用による国際的研究活動の推進					
	26	共同利用・共同研究拠点の活動支援					
	27	共同研究促進による大型共同研究の増加					
	28	電子ブック増加、学術情報リテラシー支援等、デジタル化・グローバル化時代に相応しい図書館機能の整備					
	29	臨床研究支援機能の充実・強化/クリニカルバイオリソース、リアルワールドデータ等活用による先進的臨床研究の増加及び外部資金獲得					
	30	KPIを利用した評価体系に基づくインセンティブ付与とキャリアパス					
	31	医学部教育コンテンツを活用した社会人向けインテンシブコースの充実					

※再掲の計画については、再掲元の実績を参照ください。

#### 【判定】

- V : 中期計画を十分に実施し、特に優れた実績を上げている
- IV : 中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている
- III : 中期計画を十分に実施している
- II : 中期計画を十分に実施しているとはいえない
- I : 中期計画の実施が進んでいない

# 3

## 自己点検・評価の結果 -各中期計画の達成状況-

### II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
32	プロボスト制度による将来構想等重要施策についての具体的提言／経営協議会学外委員による社会的ニーズの法人経営への反映／事務の効率化と強化・職員が意欲を持って働ける職場に係る施策					
33	再生可能エネルギーの導入促進、融通による電力負荷の平準化、CO2排出量の削減／建物単位によるエネルギーの統合管理／災害時のレジリエンスの確保					
34	宿舍跡地等の活用や寄附金等、大学独自の資金による施設整備					
35	施設の有効利用の促進、効率的なスペースの運用・再配分の推進					

### III 財務内容の改善に関する事項

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
36	必要経費や将来構想、大学全体の方針等を踏まえた学内配分、中期目標の達成に向けた効率的・効果的な予算配分の実施					
37	産業界からの研究費受入れにおける適切な間接経費の確保等					
38	基金活動の推進及び卒業生等を対象とした効率的・効果的な活動展開／適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用及び運用実績を高めるための運用規模の拡大					
39	(中期計画27の再掲、中期計画27と同判定)					

※再掲の計画については、再掲元の実績を参照ください。

### IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
40	情報発信／同窓会への情報発信強化					
41	自己点検・評価の充実・強化、及び更なる経営協議会等による検討結果の大学運営への反映					

### V その他業務運営に関する重要事項

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
42	学術情報リポジトリ（KURENAI）、貴重資料デジタルアーカイブを通じたオープンアクセス化					
43	旅費システム及び電子購買システムの導入等による事務手続きの電子化推進					
44	情報基盤の拡充、情報セキュリティ確保のための体制維持・対策強化					

【判定】

- V：中期計画を十分に実施し、特に優れた実績を上げている
- IV：中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている
- III：中期計画を十分に実施している
- II：中期計画を十分に実施しているとはいえない
- I：中期計画の実施が進んでいない

## I 教育研究の質の向上に関する事項：社会との共創

## 【自己点検・評価結果】

・社会との共創における4つの中期計画の判定は、すべて標準の「III:中期計画を十分に実施している」とし、順調に進捗しております。

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
社会との共創	1	博士後期課程学生への授業料相当額支援の拡充					
	2	白眉プロジェクトによる若手研究者受入れ/高等研究院の拡充・発展、若手研究者に対する仕組みの整備による新領域創設の促進 <small>意欲的な評価指標</small> <small>指定国立大学法人</small>					
	3	スモールアイランド型研究領域創成のための組織整備と支援					
	4	人社系分野における学際研究促進のための組織整備、研究成果の社会発信・英文ジャーナル掲載等の強化					

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

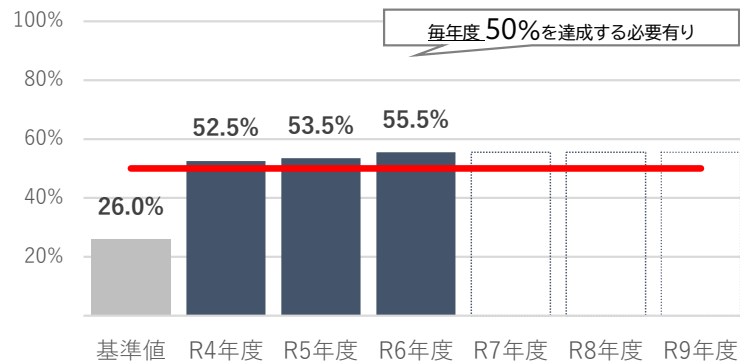
中期計画【2】の今後期待する点について：

「評価指標①(白眉プロジェクトによる研究者採用数)は、意欲的な評価指標を掲げていることも考慮すべきであるが、最終年度に達成見込みと、やや際どい水準にある。財源確保が成立しなければ研究者採用数が増えないという課題が、昨年度に引き続き課題となっているため、この点の解決に期待したい。」

## I 教育研究の質の向上に関する事項：社会との共創

## 評価指標【1】（再掲【9】）

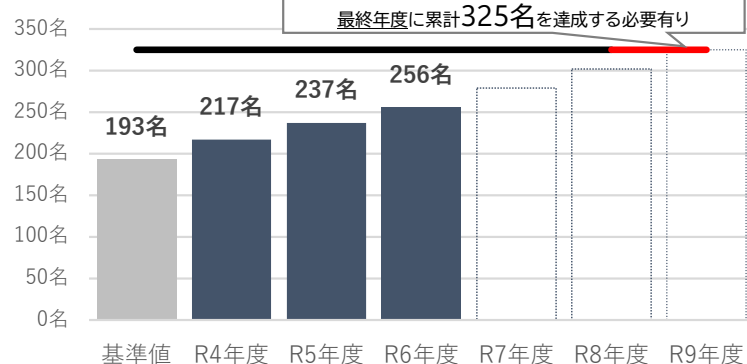
授業料相当額の支援を受けた博士後期課程学生(留学生を除く)の割合 **50%**  
 (基準値:令和元年度の日本人博士後期課程学生在籍者数に対する授業料免除率(全免のみ)26%)  
 (達成時期等:第4期中期目標期間中 **毎年度**)



## 評価指標【2】

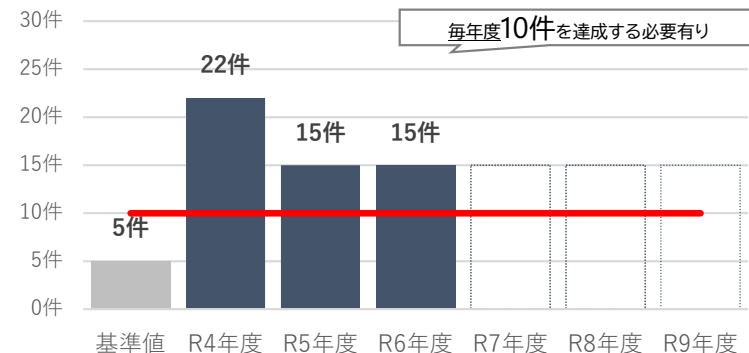
意欲的な  
評価指標

白眉プロジェクトによる研究者採用数 **累計325名**  
 (基準値:令和3年度累計193名)(達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)

指定国立  
大学法人  
KPI

## 評価指標【4】②

学際研究・産官学共創研究・国際プロジェクトの支援数 **10件/年**  
 (基準値:令和2年度5件(学内支援事業の人事重点領域枠))  
 (達成時期等:第4期中期目標期間中 **毎年度**)



・教育研究の質の向上に関する事項(社会との共創)の中期計画(再掲除き4計画)では、3つの定量的な評価指標を設定しています。

・評価指標【1】(博士後期課程への支援)、【4】②(学際研究等の支援数)は、いずれも順調に推移しており、目標値を達成できる見込みです。

・評価指標【2】(白眉プロジェクトによる研究者採用数)は、意欲的な指標として目標値を高く設定している指標です。採用に必要な財源確保に努め、最終年度に目標値を達成することを目指しております。

# 4 中期計画の達成状況②

## I 教育研究の質の向上に関する事項：教育

### 【自己点検・評価結果】

・教育における9つの中期計画(再掲除く)の判定は、6計画が標準の「III:中期計画を十分に実施している」、2計画が「IV:中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている」となり、順調に進捗しております。一方、1計画は定量指標の進捗が遅れていることから、判定は「II:中期計画を十分に実施しているとはいえない」となりました。

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
教育	5	教育プログラム・組織改編等における外部評価委員会等ステークホルダーからの意見反映／社会ニーズを踏まえた組織改編・整備の推進			■		
	6	【学士課程】学問分野発展や社会状況・学生変化に応じた教育内容の見直し、少人数教育の強化・電子化促進等による効果的な教育方法の開発			■		
	7	【修士課程】修士課程学生への奨学金等支援強化と博士後期課程への進学者確保 <small>意欲的な評価指標</small>			■		
	8	【修士課程】学問発展状況や社会変化に応じた専門教育の見直し、社会人入学の拡充／大学院教育支援の全学組織による横断教育の充実と社会実践能力習得のための起業・産連科目提供			■		
	9	【博士課程】経済的支援の拡充			■		
	10	(中期計画8の再掲、中期計画8と同判定)			■		
	11	【学部】 Kyoto iUPの充実による優秀な留学生増加と単位修得を伴う短期留学の増加				■	
	12	【大学院】大学院教育支援の全学機構による大学院教育のグローバル展開の強化 <small>指定国立大学法人 KPI</small>		■			
	13	女子学生比率の増加に向けたアクションプラン策定・女子中高生への情報発信強化			■		
	14	(中期計画11の再掲、中期計画11と同判定)				■	
	15	(中期計画12の再掲、中期計画12と同判定) <small>指定国立大学法人 KPI</small>		■			
	16	学生相談に係る全学組織の強化・整備と相談窓口の整備				■	

※再掲の計画については、再掲元の実績を参照ください。

### 【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

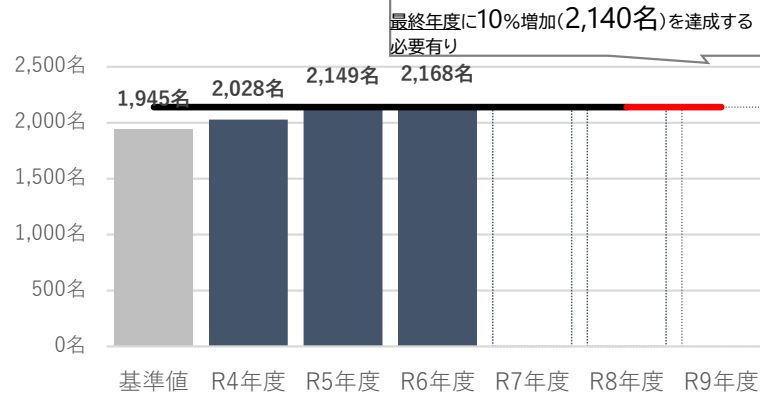
中期計画【12】の今後期待する点について：

「大学本部において様々な取組を行い実績を上げていることが読み取れるが、その成果から見込み値の根拠となる具体的／直接的な内容が見受けられず、特に評価指標②の「全体の海外留学者数」、評価指標①の「学部の留学生数」について達成水準に達するには厳しい状況と言える。本中期計画及び評価指標の達成には部局の取組が不可欠であるため、それらの状況を把握し分析するとともに、それに基づく更なる取組の展開に期待する。」

## I 教育研究の質の向上に関する事項：教育

## 評価指標【6】

少人数で課題を探究する科目(ILASセミナー)開講科目履修者数 **10%増加(→2,140名)**  
(基準値:令和2年度1,945名)(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)

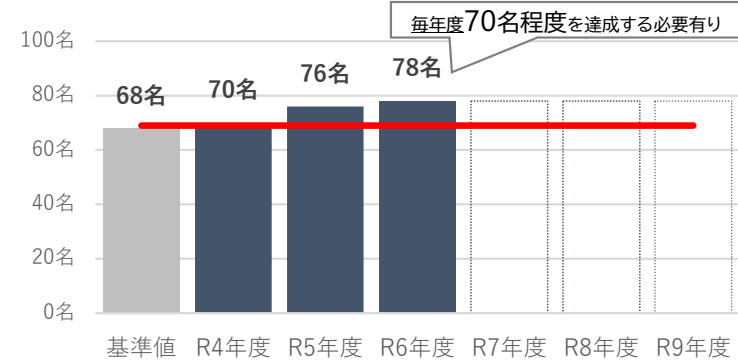


・教育研究の質の向上に関する事項(教育)の中期計画(再掲除き9計画)では、8つの定量的な評価指標(次ページ以降にも掲載)を設定しています。

・本スライドに掲載する3つの評価指標【6】(ILASセミナー履修者数)、【7】(奨学金支給対象者数)、【8】②(横断科目等の履修者数)については、いずれも順調に推移しており、目標値を達成できる見込みです。なお、【7】(奨学金支給対象者数)は、意欲的な指標として目標値を高く設定している指標となります。

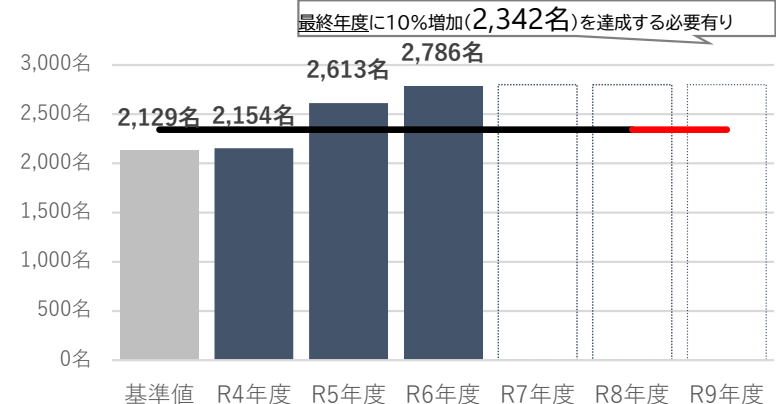
## 評価指標【7】

(修士課程)大学独自の奨学金支給対象者数 月10万円の奨学金を**70名程度**に支給  
(第4期からの新規事業)(基準値:令和3年度68名)(第4期中期目標期間中 毎年度)



## 評価指標【8】② (再掲【10】②)

横断科目及び大学院共通科目の合計履修者数 **10%増加(→2,342名)**  
(基準値:令和2年度2,129名)(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)



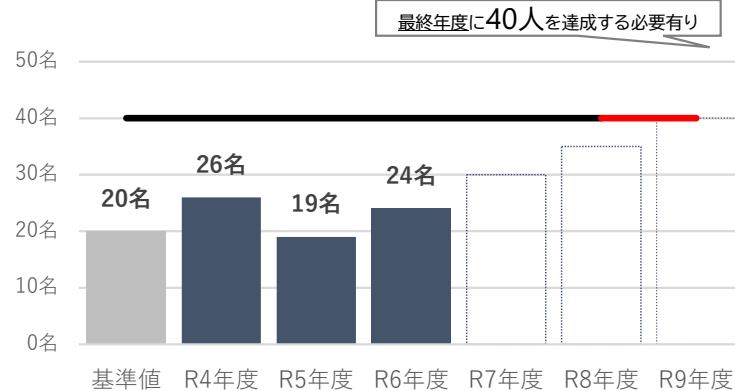
## I 教育研究の質の向上に関する事項：教育

■ 年度数値 □ 次年度以降見込値 ■■■ 目標値

## 評価指標【11】①（再掲【14】①）

Kyoto iUPの入学者数 40人

(基準値:令和3年度20人)(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)

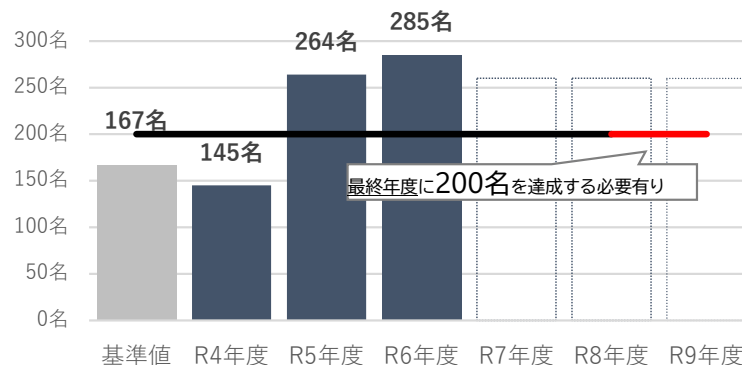


・評価指標【11】①(Kyoto iUP入学者数)、【11】②(短期プログラム等への派遣人数)については、順調に進捗しており、それぞれ「iii:達成水準を大きく上回ることが見込まれる」と判定しました。特に、評価指標【11】①では、海外の優秀層に対する戦略的な広報・リクルート活動を行い、62の国・地域から過去最多となる795人の出願者を得ております。

## 評価指標【11】②（再掲【14】②）

中長期及び短期の海外留学生(学部生)400名のうち、交換留学生と単位認定の仕組みを伴う短期プログラム等への派遣人数 200名

(基準値:令和元年度408名のうち、交換留学生及び単位認定の仕組みを伴うもの167名 ただし、令和2年度以降コロナ禍により大幅減)(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)



【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

中期計画【11】の優れた点について:

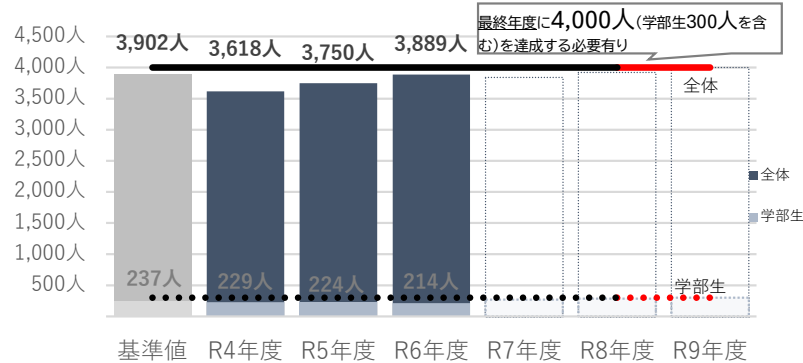
「評価指標①にある入学者数については一定の割合での増加が計画されており実績値が目標値を大きく上回ることが基本的に想定されていないと考えられる。様々な取組により出願者数が大幅に増加しており、優秀な留学生獲得のため戦略的に活動していることから優れた実績を上げていると評価できる。・評価指標②について、実績から今後大幅に増加する見込みではないものの既に目標値の130%となっており、今後の計画を着実に実行することにより、目標値を大きく上回ることが期待できる。」

# 4 中期計画の達成状況② -定量的な評価指標-

## I 教育研究の質の向上に関する事項：教育

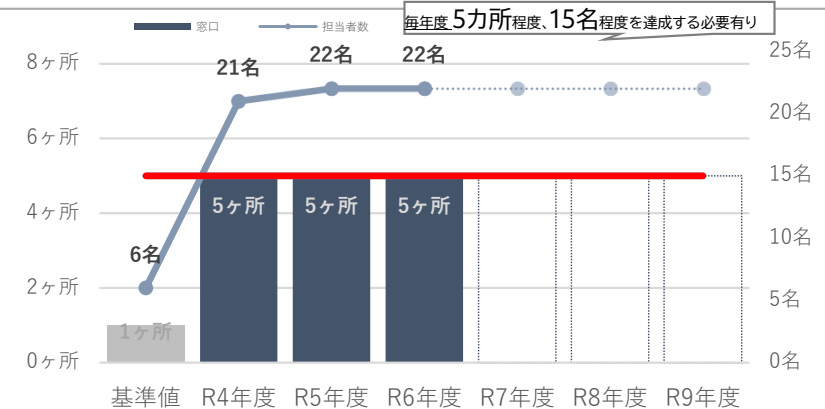
評価指標【12】①（再掲【15】①）

外国人留学生数 **4,000人**(学部生**300人**を含む)  
 (基準値:令和元年度3,902名(うち学部生237名)ただし令和2年度以降コロナ禍により大幅減)  
 (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



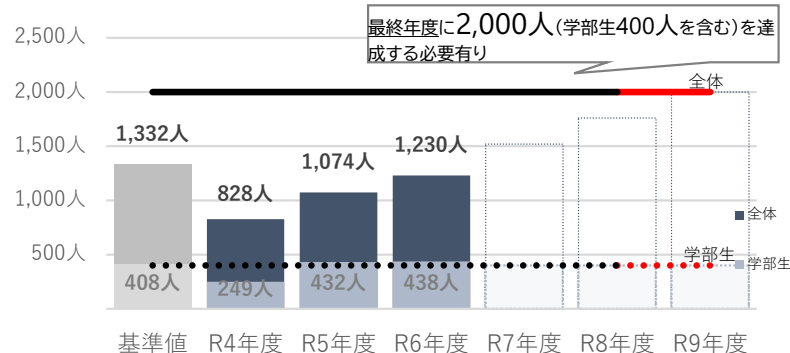
評価指標【16】

相談窓口 **5ヶ所程度**、担当者数 **15名程度**  
 (基準値:令和3年度1ヶ所、6名)(達成時期等:令和4年度に設置し、以後、維持運営)



評価指標【12】②（再掲【15】②）

中長期及び短期の海外留学者数の増加状況 **2,000人**(学部生**400人**を含む)  
 (基準値:令和元年度1,332名(うち学部生408名)ただし令和2年度以降コロナ禍により大幅減)  
 (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



・評価指標【12】①は(外国人留学生数)は、全体では順調に増加しておりますが、学部生が伸び悩んでおります。また、評価指標【12】②(海外留学者数の増加)でも、全体数は増加していますが、学部生がやや伸び悩んでおり、いずれもコロナ禍前の水準まで回復していない状況です。







・評価指標【16】(相談窓口、担当者数)は、担当者数が目標値を大きく上回っていることに加え、各種グループ活動が学生に対するアンケートでも高い評価を得ていること等から、「iii:達成水準を大きく上回ることが見込まれる」と判定しました。

# 4 中期計画の達成状況③

## I 教育研究の質の向上に関する事項：研究

### 【自己点検・評価結果】

・研究における5つの中期計画(再掲除く)の判定は、すべて標準の「III:中期計画を十分に実施している」となり、順調に進捗しております。

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
研究	17	教育研究補佐業務の雇用体制整備による研究環境改善 					
	18	若手研究者着任時の研究費支援・大型研究費獲得支援					
	19	若手研究者に係る定員運用の仕組み拡大 					
	20	(中期計画17の再掲、中期計画17と同判定) 					
	21	(中期計画18の再掲、中期計画18と同判定)					
	22	(中期計画19の再掲、中期計画19と同判定) 					
	23	特許の利用促進やベンチャー支援を通じた研究成果の社会還元促進 					
	24	定員運用やインセンティブ等による若手研究者の増加/採用/昇任 インセンティブ等、女性教員比率の増加に向けたアクションプラン策定 					

※再掲の計画については、再掲元の実績を参照ください。

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

中期計画【23】の優れた点について：  
「指標実績「ベンチャー企業創出」以降のフェーズとして中期計画に記載されている観点についても、フォローアップを意識されている。」

# 4 中期計画の達成状況③ -定量的な評価指標-

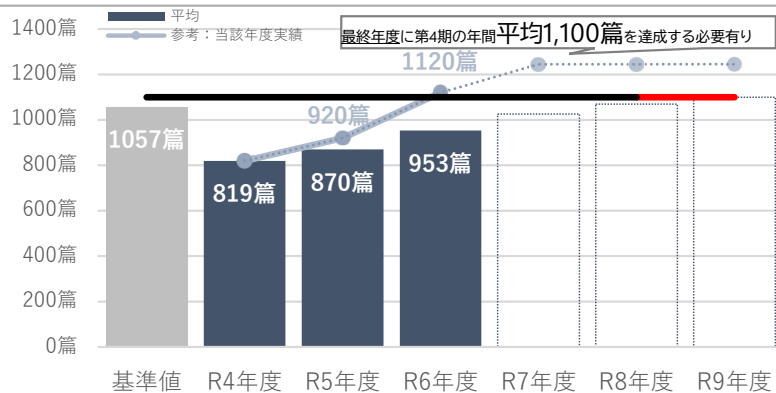
## I 教育研究の質の向上に関する事項：研究

■ 年度数値 □ 次年度以降見込値 ● 目標値

### 評価指標【17】②（再掲【20】②）

国際的に評価の高いジャーナル(Top10%)への掲載論文数 年間平均1,100篇  
(基準値:平成28~31年度平均1,057篇)(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)

指定国立  
大学法人  
KPI



・教育研究の質の向上に関する事項(研究)の中期計画(再掲除き5計画)では、5つの定量的な評価指標(次ページ以降にも掲載)を設定しています。

・評価指標【17】②(Top10%ジャーナルへの掲載論文数)は第4期6年間の年平均で1,100篇を超えることを目指すものです。コロナ禍等の影響により令和5年度まで伸び悩みが見られましたが、令和6年度に入り回復が進んでおります。

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

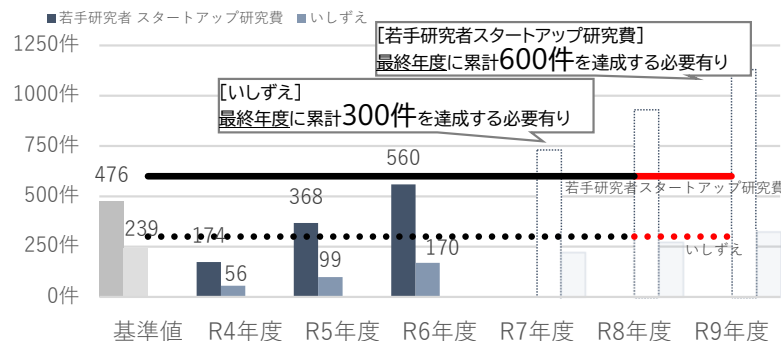
中期計画【17】の今後期待する点について:

「指標②はコロナ禍等の影響による危険水域を脱しつつあることが見受けられるものの、年度計画の想定を下回っており予断は許されないことが自己分析されている。これらのことも踏まえ、次年度以降の課題に対する実行計画では、実施にあたり分析や公開自体が目的化せぬよう、指標達成に現実的に繋げることをより意識されたい。」

### 評価指標【18】（再掲【21】）

若手研究者等が着任時に研究を開始するための研究費の支援(「若手研究者スタートアップ研究費」)、中堅研究者等がより大型の研究費を獲得するための支援(「いしずえ」)の採択件数(第4期中)若手研究者スタートアップ研究費 累計600件、いしずえ 累計300件

(基準値:第3期累計若手研究者スタートアップ研究費 476件、いしずえ239件)(それぞれ第3期比約30%増)(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)



・評価指標【18】(若手研究者等の研究費支援)は、指標となっている若手研究者スタートアップ研究費、いしずえは着実に増加しており、順調に進捗しています。

# 4

## 中期計画の達成状況③ - 定量的な評価指標 -

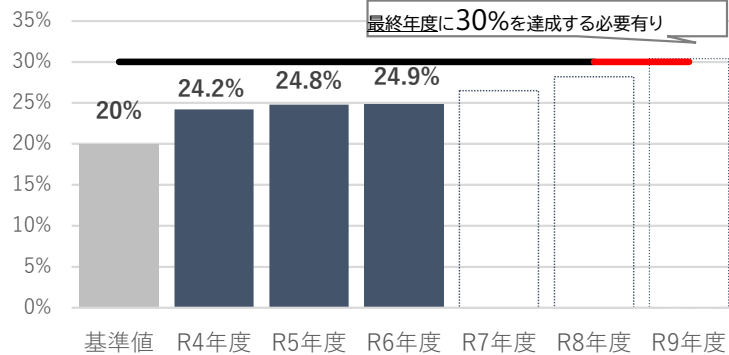
### I 教育研究の質の向上に関する事項：研究

#### 評価指標【19】（再掲【22】、【24】①）

若手教員及び研究者の割合 **30%**

(基準値:平成29年度約20%)(達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)

指定国立  
大学法人  
KPI



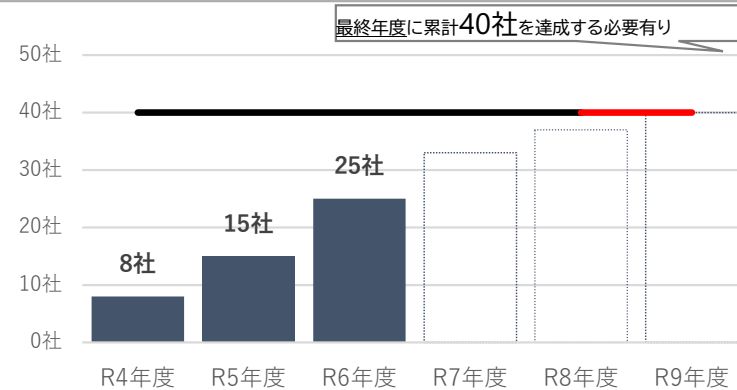
・評価指標【19】(若手の教員や研究者の割合)は、実績としてはやや伸び悩んでいる状況ですが、全学の取り組みが学系等の雇用に顕在化するためには時間がかかるため、現時点では「ii:達成水準を満たすことが見込まれる」と判定しています。

・評価指標【23】(ベンチャー企業創出数)、【24】②(女性教員比率)は、いずれも順調に推移しており、目標値を達成できる見込みです。特に、女性教員については、女性限定公募等による定員内女性教員の採用・昇任を行った場合に、育児・研究環境整備に必要な経費を支援しており、女性教員の採用増に繋がっております。

#### 評価指標【23】

ベンチャー企業創出数 第4期中期目標期間において新たに**40社**  
(年間6~7件程度の増加)(達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)

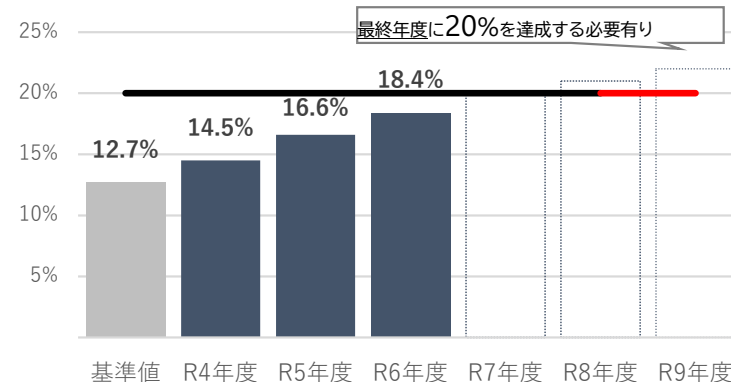
指定国立  
大学法人  
KPI



#### 評価指標【24】②

女性教員比率 **20%**

(基準値:令和2年5月実績12.7%)(達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



# 4 中期計画の達成状況④

## I 教育研究の質の向上に関する事項： その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

### 【自己点検・評価結果】

・その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項における6つの中期計画の判定は、4計画が標準の「III:中期計画を十分に実施している」、2計画が「IV:中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている」となり、順調に進捗しております。

項目	中期計画	主な取組	判定				
			I	II	III	IV	V
その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項、	25	On-site Laboratory、戦略的パートナーシップ等国際学術ネットワークの枠組活用による国際的研究活動の推進					
	26	共同利用・共同研究拠点の活動支援					
	27	共同研究促進による大型共同研究の増加 <small>指定国立大学法人 KUP</small>					
	28	電子ブック増加、学術情報リテラシー支援等、デジタル化・グローバル化時代に相応しい図書館機能の整備					
	29	臨床研究支援機能の充実・強化／クリニカルバイオリソース、リアルワールドデータ等活用による先進的臨床研究の増加及び外部資金獲得 <small>意欲的な評価指標</small>					
	30	KPIを利用した評価体系に基づくインセンティブ付与とキャリアパス					
	31	医学部教育コンテンツを活用した社会人向けインテンシブコースの充実					

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

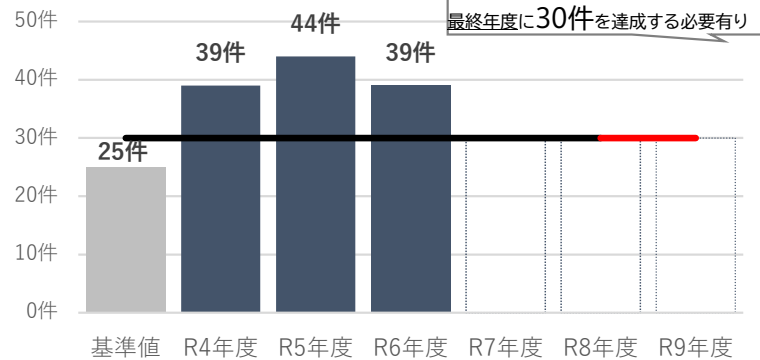
中期計画【25】の優れた点について：

「OSL事業を通じて、国際共同研究数が49件に達したほか、計22報の国際共著論文が発表されるなど、国際共同研究の活発化が確認できる。」

## I 教育研究の質の向上に関する事項： その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

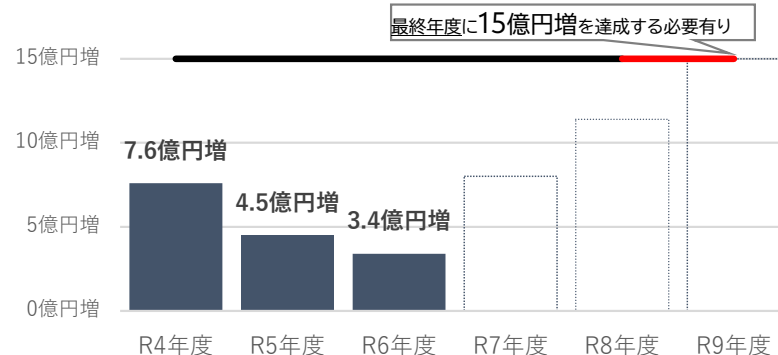
### 評価指標【25】

On-site Laboratoryや戦略的パートナーシップ事業に基づく、国際共同研究への支援件数  
年間**30件**  
(基準値: 令和3年度25件)(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



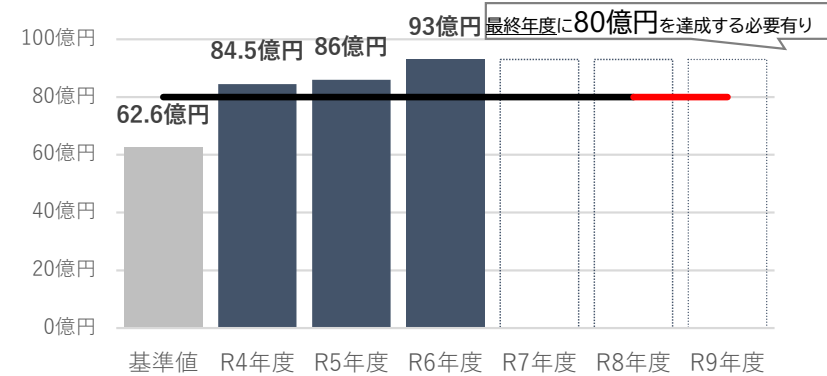
### 評価指標【27】① (再掲【39】①)

大型共同研究の実施金額 **15億円増**  
(第3期年平均額比70%増)(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【27】② (再掲【39】②)

共同研究の実施金額 **年間80億円**  
(基準値: 令和元年度実績62.6億円)(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



・その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項の中期計画(6計画)では、11の定量的な評価指標(次ページ以降にも掲載)を設定しています。

・評価指標【25】(国際共同研究への支援件数)は、これまで順調な進捗であるものの、令和7年度以降については未確定な状況であるため、保守的な見込みとしております。

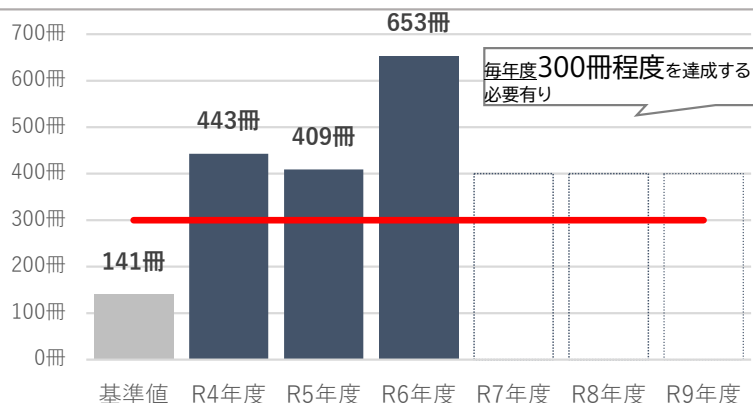
・評価指標【27】は、令和6年4月に設置した成長戦略本部が中心となり取り組んでいます。評価指標【27】①(共同研究の実施金額)は、締結した大型プロジェクト等の本格始動に伴い、今後実績の伸長が期待できるため、最終年度には目標値を達成できる見込みです。また、【27】②(大型共同研究の実施金額増加)【27】はすでに目標値を上回る順調な進捗となっております。

# 4 中期計画の達成状況④ -定量的な評価指標-

## I 教育研究の質の向上に関する事項: その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

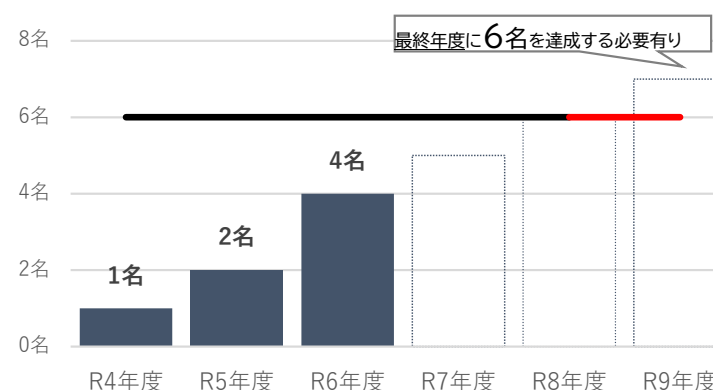
評価指標【28】①

電子ブックの増加 **年間300冊程度**  
(基準値:令和2年度141冊)(達成時期等:第4期中期目標期間中 **毎年度**)



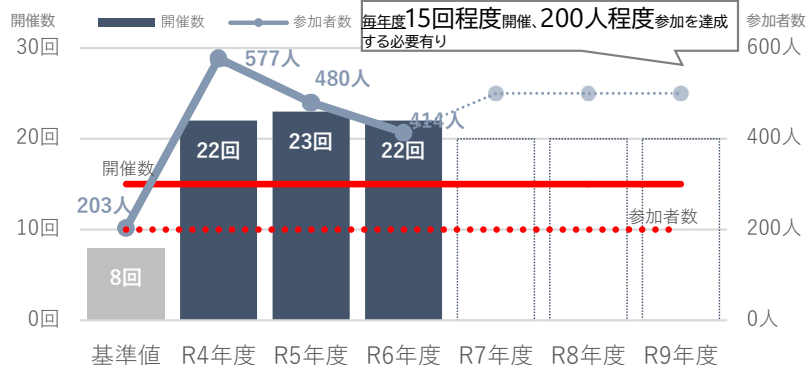
評価指標【29】①

臨床研究を専らとする教員の病院財源での雇用状況配置数 **6名**  
(第4期からの新規事業)(達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



評価指標【28】②

学術情報リテラシー教育支援事業の実施状況(年間、**15回程度開催、200人程度参加**)  
(基準値:令和2年度開催8回、平成28~令和2年度平均参加203人)  
(達成時期等:第4期中期目標期間中 **毎年度**)



・評価指標【28】は、附属図書館に関するものです。評価指標【28】①(電子ブックの増加)、評価指標【28】②(学術情報リテラシー教育支援事業)は毎年度達成する必要のある指標となっていますが、順調に進捗しており、継続して達成できる見込みです。

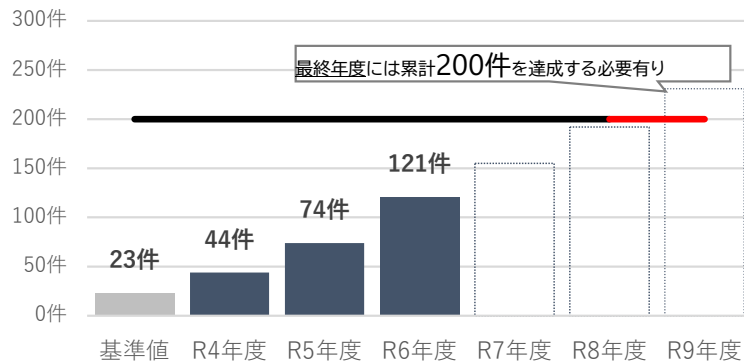
・評価指標【29】(次ページ以降にも掲載)は附属病院に関するものです。評価指標【29】①(教員の病院財源での雇用状況配置数)は順調に推移しており、目標値を達成できる見込みです。

# 4 中期計画の達成状況④ -定量的な評価指標-

## I 教育研究の質の向上に関する事項： その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

### 評価指標【29】②

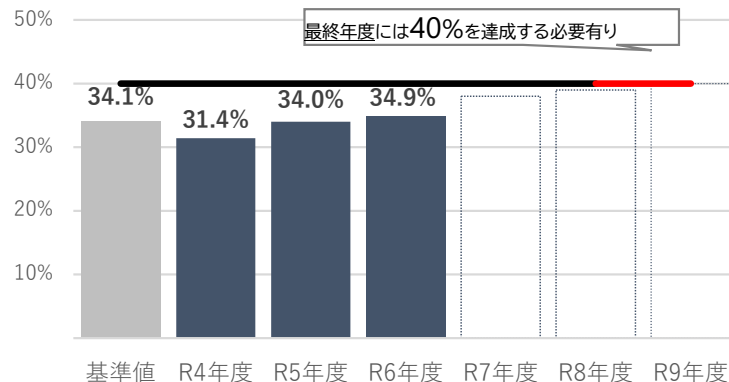
先進的臨床研究の受託及び実施数 **累計200件**  
 (First in human (FIH)試験、iPS細胞等を活用した再生医療、希少疾患関連臨床試験、医師主導治験、  
 先進医療、臨床研究法遵守特定臨床研究実施件数)  
 (基準値: 令和2年度23件)(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【29】③

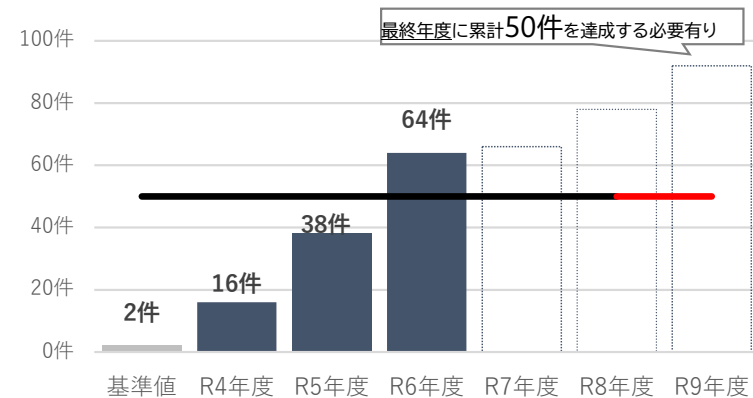
意欲的な  
評価指標

クリニカルバイオリソース利用率 **40%**  
 (基準値: 令和2年度34.1%)(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【29】④

リアルワールドデータ利用件数 **累計50件**  
 (基準値: 令和3年度2件)(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



・評価指標【29】②(先進的臨床研究)は、順調に推移しており、目標値を達成できる見込みです

・評価指標【29】③(クリニカルバイオリソース)は、意欲的な指標として目標値を高く設定している指標です。今年度は伸び悩みが見られるものの、翌年度以降の回復を目指し、最終年度には目標値を達成できる見込みです。

・評価指標【29】④(リアルワールドデータ利用件数)については、データベースの構築が日本経済新聞に掲載されたこともあり、目標値を大きく上回る勢いで利用件数が伸びております。

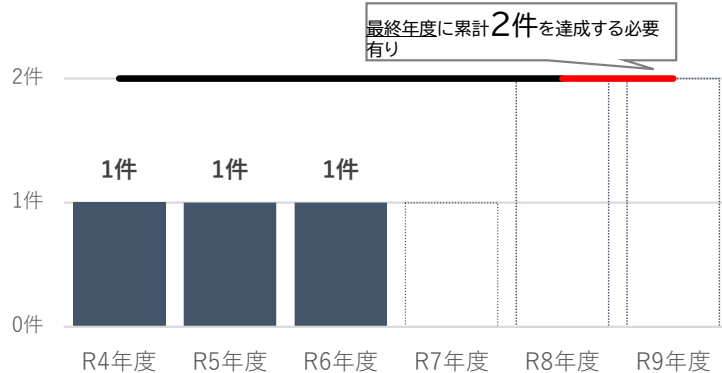
# 4 中期計画の達成状況④ -定量的な評価指標-

## I 教育研究の質の向上に関する事項： その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

■ 年度数値 □ 次年度以降見込値 ■■■ 目標値

### 評価指標【31】①

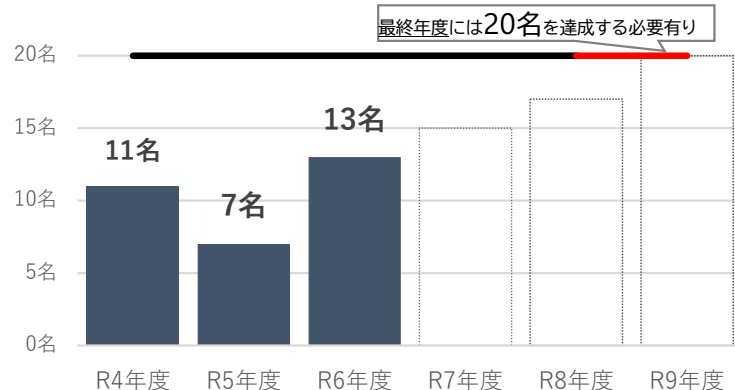
社会人向けインテンシブコースの設置数 **累計2件**  
(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)



・評価指標【31】(社会人向けインテンシブコース)は、附属病院に関するものです。各実績は順調に推移しており、目標値を達成できる見込みです。特に、評価指標【31】②のインテンシブコースへの参加者数については、前年度は応募人数が低調となっていましたが、受講生の利便性を高め、受講のハードルを下げることの取り組みを行ったことで、大幅に増加しました。

### 評価指標【31】②

社会人向けインテンシブコースへの参加者数 **20名**  
(達成時期等:第4期中期目標期間最終年度)



【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋  
中期計画【31】の優れた点について：  
「評価指標②について、前年度に記載していた課題に対し計画どおり実行しており、参加者数がほぼ倍増している。着実に成果を上げおり、コース履修者が中期計画にある医療分野を先導し中核となって活躍する医療人となることを期待する。」

# 4 中期計画の達成状況⑤

## II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 【自己点検・評価結果】

・業務運営の改善及び効率化に関する事項における4つの中期計画の判定は、3計画が標準の「III:中期計画を十分に実施している」、1計画が「IV:中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている」となり、順調に進捗しております。

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
32	プロボスト制度による将来構想等重要施策についての具体的提言／経営協議会学外委員による社会的ニーズの法人経営への反映／事務の効率化と強化・職員が意欲を持って働ける職場に係る施策					
33	再生可能エネルギーの導入促進、融通による電力負荷の平準化、CO2排出量の削減／建物単位によるエネルギーの統合管理／災害時のレジリエンスの確保					
34	宿舍跡地等の活用や寄附金等、大学独自の資金による施設整備					
35	施設の有効利用の促進、効率的なスペースの運用・再配分の推進					

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

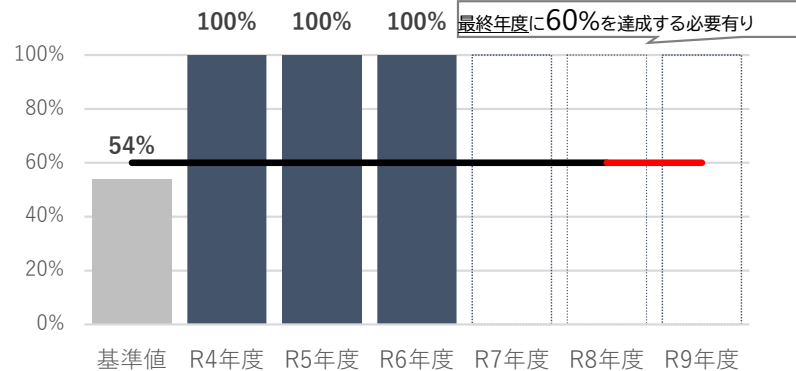
中期計画【35】の優れた点について：

「部局の研究スペースが分散し研究に支障が出ている状況に対して、指標を大きく上回るスペースを確保できている。」

## II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

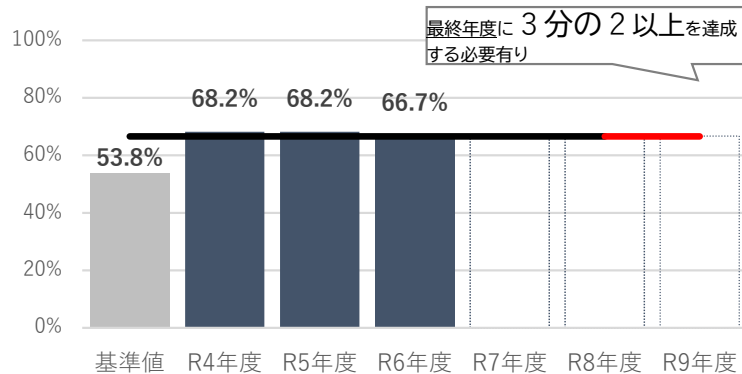
## 評価指標【32】①

戦略調整会議からの答申等の大学運営への反映実績 **60%** (第3期中期目標期間比6ポイント増)  
(基準値:第3期54%) (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



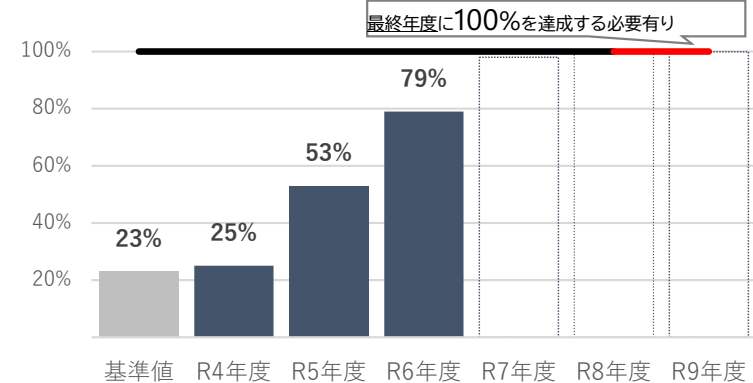
## 評価指標【32】②

経営協議会の委員構成において、**3分の2以上**を学外委員とする。  
(基準値:令和3年度26名中14名) (第4期中期目標期間**最終年度**)



## 評価指標【33】①

主要キャンパスにおいて、建物単位での電力使用状況の見える化を**100%**達成する。  
(基準値:令和3年度23%) (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



・業務運営の改善及び効率化に関する事項の中期計画(4計画)では、6つの定量的な評価指標(次ページ以降にも掲載)を設定しています。

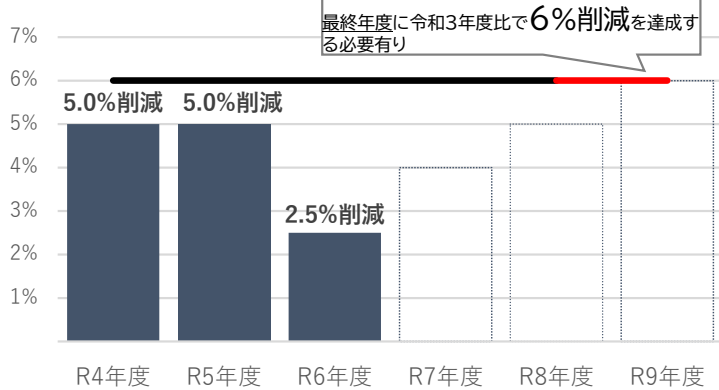
・評価指標【32】①(戦略調整会議答申等の反映)、評価指標【32】②(経営協議会の委員構成)、評価指標【33】①(電力の見える化)は順調に推移しており、目標値を達成できる見込みです。

# 4 中期計画の達成状況⑤ - 定量的な評価指標 -

## II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

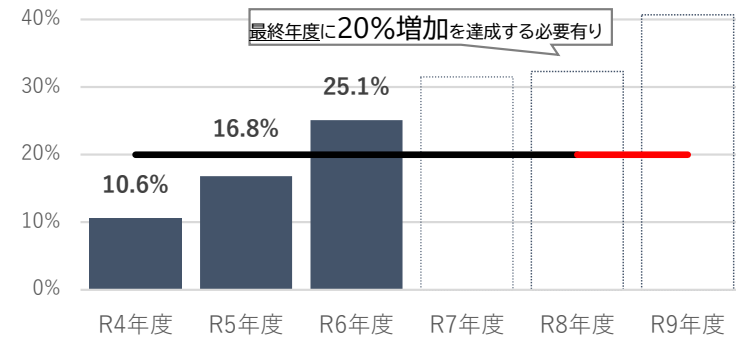
### 評価指標【33】②

エネルギー消費原単位を、令和3年度比で**6%削減**する。  
(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



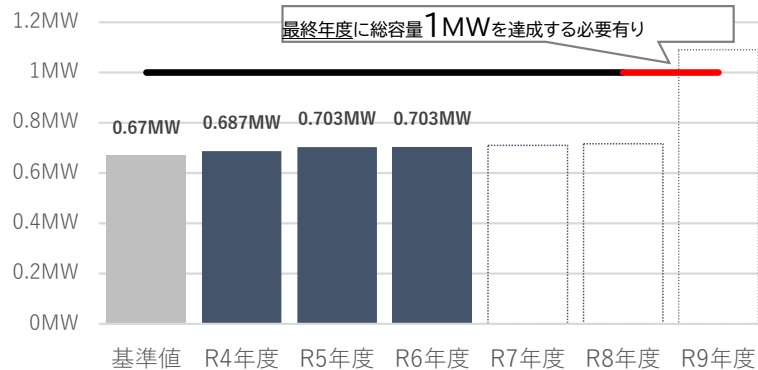
### 評価指標【35】

スペース運用及び再配分面積の増加状況 **20%増加**  
(第3期(平成28年度~令和2年度)7%増に対して13ポイント増)  
(達成時期等: 令和3年度と比べて第4期中期目標期間**最終年度**)



### 評価指標【33】③

自家消費型再生エネ発電設備の普及を促進し、総容量**1MW**を達成する。(令和3年度比49%増)  
(基準値: 令和3年度0.67MW)(達成時期等: 第4期中期目標期間**最終年度**)



・評価指標【33】②(エネルギー削減)について、今年度は削減率が落ちていますが、評価指標①で実施した電力使用状況の見える化データに基づき、費用対効果の高い施策に取り組む予定です。

評価指標【33】③(省エネ発電設備普及)について、ここまでは僅かな伸びとなっていますが、令和9年度に蓄電池の設置予定があり、目標値は達成できる見込みです。

・評価指標【35】(スペースの増加)については、効率的なスペースの運用・再配分により、目標値を大きく上回るペースで進捗しており、研究環境の改善と業務の効率化が期待できます。

# 4 中期計画の達成状況⑥

## Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

### 【自己点検・評価結果】

・財務内容の改善に関する事項における3つの中期計画(再掲除く)の判定は、1計画が標準の「Ⅲ:中期計画を十分に実施している」、1計画が「Ⅳ:中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている」、1計画が「Ⅴ:中期計画を十分に実施し、特に優れた実績を上げている」となり、好調な進捗が確認されました。

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
36	必要経費や将来構想、大学全体の方針等を踏まえた学内配分、中期目標の達成に向けた効率的・効果的な予算配分の実施					
37	産業界からの研究費受入れにおける適切な間接経費の確保等					
38	基金活動の推進及び卒業生等を対象とした効率的・効果的な活動展開/適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用及び運用実績を高めるための運用規模の拡大 <small>指定国立大学法人 KPI</small>					
39	(中期計画27の再掲、中期計画27と同判定) <small>指定国立大学法人 KPI</small>					

※再掲の計画については、再掲元の実績を参照ください。

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

中期計画【38】の優れた点について:

「評価指標について目標値を130%以上上回る見込みであり、ニーズに応じた大型ファンドの組成や寄附メニューなど取組に対する成果が見られた。」

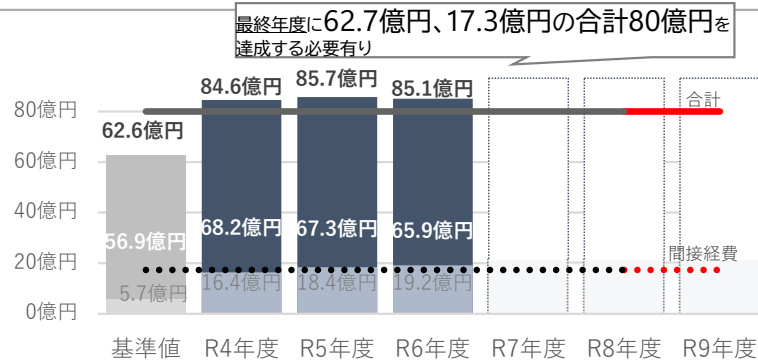
# 4 中期計画の達成状況⑥ -定量的な評価指標-

## Ⅲ 財務内容の改善に関する事項

■ 年度数値 □ 次年度以降見込値 ● 目標値

### 評価指標【37】

直接経費**62.7億円**、間接経費**17.3億円**、**合計80億円**(中期計画【27】【39】の目標値)の受入額(間接経費率については、第3期の平均9.2%の3倍増)  
 (基準値:令和元年度 直接経費56.9億円、間接経費5.7億円、合計62.6億円)  
 (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



・財務内容の改善に関する事項の中期計画(再掲除き3計画)では、2つの定量的な評価指標を設定しています。

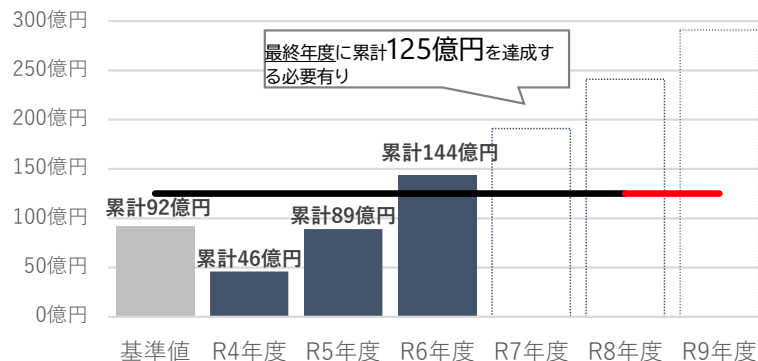
・評価指標【37】(直接経費、間接経費)については、成長戦略本部による大型共同研究の企画提案等、組織対組織の大型連携を推進しており、現時点で目標値を上回る順調な進捗となっています。

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋  
 中期計画【37】の優れた点について:  
 「大企業との包括連携を開始する等、産業界等からの共同研究費の受入金額が順調に増加していることが確認できた。」

### 評価指標【38】

京都大学基金(特定基金を含む)の寄附受入額 期間中**累計125億円**  
 (基準値:第3期期間中目標額92億円) (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)

指定国立  
大学法人  
KPI



・評価指標【38】(寄附受入額)については、長期構想型(若手研究者支援や社会課題解決プロジェクト等)の大型ファンド組成が寄附金に繋がる等、複数の大型寄附案件があり、目標値を大きく上回るペースで進捗しております。

# 4 中期計画の達成状況⑦

## IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について 自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

### 【自己点検・評価結果】

・教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項における2つの中期計画の判定は、1計画が標準の「III:中期計画を十分に実施している」、1計画が「IV:中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている」となり、順調に進捗しております。

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
40	情報発信／同窓会への情報発信強化					
41	自己点検・評価の充実・強化、及び更なる経営協議会等による検討結果の大学運営への反映					

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

中期計画【41】の優れた点について：

「中期目標・中期計画に係る自己点検・評価について毎年度改良を重ねており、また、教育研究に係る自己点検・評価でも法人評価や認証評価を見据えながら実施し、課題を全学に共有し、今後ますますの内部質保証を機能するものとして期待できる。」

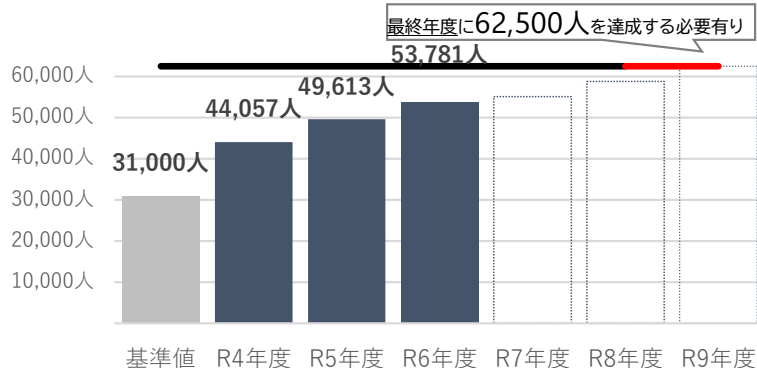
# 4 中期計画の達成状況⑦ -定量的な評価指標-

## IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について 自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

■ 年度数値 □ 次年度以降見込値 ● 目標値

### 評価指標【40】②

KUON(同窓生向けサービス)の登録者数 **62,500人**  
(基準値:令和2年度末登録者数比約200%)  
(達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



・教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項の中期計画(2計画)では、1つの定量的な評価指標を設定しています。

・評価指標【40】②(KUONの登録者数)については、KUON登録者のニーズに合った優待特典の獲得や、魅力的な企画の実施、メルマガの充実を図ることで、毎年度着実に登録者数を伸ばしており、最終年度までに目標値を達成できる見込みです。

## 4 中期計画の達成状況⑧

### V その他業務運営に関する重要事項

#### 【自己点検・評価結果】

・その他業務運営に関する重要事項における3つの中期計画の判定は、2計画が標準の「Ⅲ:中期計画を十分に実施している」、1計画が「Ⅳ:中期計画を十分に実施し、優れた実績を上げている」となり、順調に進捗しております。

中期計画	主な取組	判定				
		I	II	III	IV	V
42	学術情報リポジトリ（KURENAI）、貴重資料デジタルアーカイブを通じたオープンアクセス化					
43	旅費システム及び電子購買システムの導入等による事務手続きの電子化推進					
44	情報基盤の拡充、情報セキュリティ確保のための体制維持・対策強化					

【大学評価委員会コメント】 ※報告書本体より、一部抜粋

中期計画【42】の優れた点について：

「評価指標とも達成水準を満たしており、かつオープンアクセス化の支援体制も強化が図られていることから、学内全体に対するオープンアクセス化の割合が進むことが期待できる。」

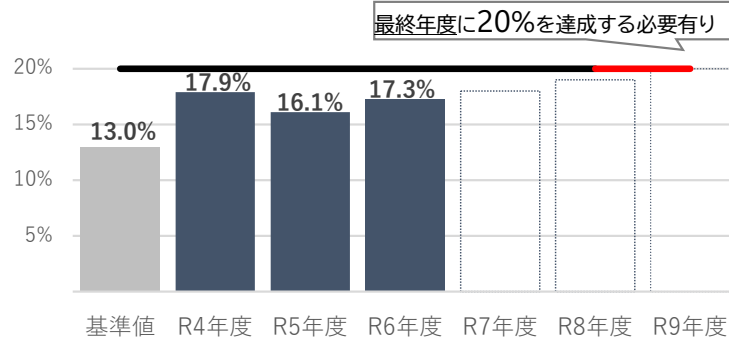
# 4 中期計画の達成状況⑧ -定量的な評価指標-

## V その他業務運営に関する重要事項

■ 年度数値 □ 次年度以降見込値 ● 目標値

### 評価指標【42】①

教育研究活動データベースに教員が登録した研究業績(論文)のうち、KURENAIに登録された論文の割合 最終年次に**20%到達**  
 (令和2年度13%から年間1ポイント強増加)  
 (基準値:令和2年度13%) (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)

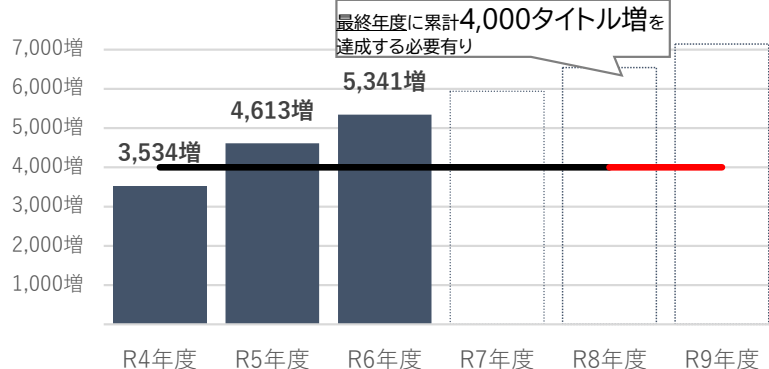


・その他業務運営に関する重要事項の中期計画(3計画)では、2つの定量的な評価指標を設定しています。

・評価指標【42】①は附属図書館に関するものです。評価指標【42】①(KURENAIへの登録論文割合)については、研究者への登録促進と広報活動を行い、昨年度の落ち込みから回復してきております。

### 評価指標【42】②

貴重資料デジタルアーカイブのコンテンツ公開数 最終年次に**累計4,000タイトル増**  
 (令和2年度末時点累積公開数 20,564タイトル)  
 (達成時期等:第4期中期目標期間**最終年度**)



・評価指標【42】②(デジタルアーカイブのコンテンツ公開数)については、積極的な公開により、目標値を大幅に上回るペースで進捗しております。

## 5 今後に向けて

今回、大学評価委員会の判定・コメントを新たに設けるなど新たな手法を取り入れることにより、学内における自己点検・評価機能が高まったと言える。

また、法人評価と同基準で自己点検・評価を行うことで、令和8年度に実施される4年目終了時評価に向けて注視すべき中期計画・評価指標がより明確となった一方で、いくつかの課題が浮き彫りとなった。

これらの課題に対し、次回以降は下記の点に注力し、自己点検・評価の機能を更に強化する。

- 成果が取組のアウトプットにとどまっているものや、取組や課題等の記載でも中期計画の達成に対する意識の希薄さが見受けられた。  
既に目標値を達成している評価指標も4割あることや、次年度以降は中期目標期間の後半となることを踏まえて、取組や報告が不十分と思われる項目の担当部署に対して、中期計画の達成に関する成果、特にアウトカムの報告を促す。
- コロナ禍の影響等によりオンラインを通じた教育研究活動が多くなり、当初の想定していた状況とは異なったものもあるなか、各計画とも達成に向けた取組を着実に実行していることが確認されたが、その一方、評価指標の判定がiii以外においては、優れた実績や成果として担当理事・担当課が取り上げた事項は数件のみであった。  
今後優れた成果が見込まれる取組や先進的、戦略的な取組について、本学の特色も含めつつ、担当理事・担当課に対し積極的にアピールすることを促す。